第12回 京都大学附置研究所・センターシンポジウム
京都大学金沢講演会

KURCA

京都からの挑戦
――地球社会の調和ある共存に向けて

自由風格、京大
フリースタイル

2017年
3月11日(土)
10:00～17:10
石川県文教会館
(金沢市尾山町10番5号:金沢駅よりバス10分)
募集定員:590名 (応募申込みは先着順)
※入場無料
どなたでもご参加いただけます

高校生の参加歓迎!

10:00-10:10
開会挨拶　山極壽一(京都大学総長)

I 生きる場の風景

10:10-10:40 ●〈人と自然のつながりを考える〉
「人はなぜ、森で感動するのか」
伊勢武史(フィールド科学教育研究センター准教授)

10:40-11:10 ●〈人と自然のつながりを考える〉
「森林の『メタボ化』を診断する」
木庭啓介(生態学研究センター教授)

11:10-11:40 ●〈人と人のつながりを考える〉
「地域研究で考えるリアルなアジア」
中西嘉宏(東南アジア地域研究研究所准教授)

11:40-13:05　休憩
13:05-13:20　質問回答コーナー

II 神は細部に宿り給う

13:20-13:50 ●〈体の仕組みに迫る〉
「ウイルス化石が語る生命の進化」
朝長啓造(ウイルス・再生医科学研究所教授)

13:50-14:20 ●〈心の動きをたどる〉
「芸術とはどんな〈出来事〉なのか?」
吉岡　洋(こころの未来研究センター教授)

III 天地玄黄、宇宙洪荒

14:20-14:50 ●〈地球の豊かさを知る〉
「生命を支える海の微量元素」
宗林由樹(化学研究所教授)

14:50-15:20 ●〈宇宙の謎を解き明かす〉
「ブラックホールだらけの宇宙」
井岡邦仁(基礎物理学研究所教授)

15:20-15:40　休憩
15:40-15:55　質問回答コーナー

15:55-17:05
パネルディスカッション
「地上にもともと道はない」(魯迅)
――未踏科学研究ユニットが目指すもの
山極壽一(京都大学総長)
大志万直人(京都大学研究連携基盤長)
佐々木節(未来創成学国際研究ユニット長　基礎物理学研究所)
湯本貴和(ヒトと自然の連鎖生命科学研究ユニット長　霊長類研究所)
梅澤俊明(グローバル生存基盤展開ユニット長　生存圏研究所)
原正一郎(学知創生ユニット長　東南アジア地域研究研究所)
司会:吉川左紀子(こころの未来研究センター長)

17:05-17:10
総括・挨拶　湊　長博(京都大学理事)

〈お申込み方法〉

○**ウェブでの申込み**
参加申込みフォームからお申込みください。
ホームページアドレス
https://u.kyoto-u.jp/sympo2017

○**FAXでの申込み**
冒頭に「京都大学シンポジウム参加申込」と明記し、
①氏名(ふりがな)　②連絡先のFAX番号および電話番号
受付通知をメールにて希望される方はメールアドレス
③年齢　④性別　をご記入の上、下記までご送付ください。

○**往復はがきでの申込み**
冒頭に「京都大学シンポジウム参加申込」と明記し、
①氏名(ふりがな)　②住所　③連絡先の電話番号　④年齢
⑤性別　をご記入の上、下記までご送付ください。
返信はがき(表)に、送付先の住所、氏名を必ず記入してください。

〈申込み・お問い合わせ先〉

京都大学人文科学研究所総務掛
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-6902　FAX 075-753-6903
E-mail: sympo2017@kurca.kyoto-u.ac.jp
(当日のお問い合わせ先)
石川県文教会館　TEL 076-262-7311

※取得した個人の情報は、適切に管理し、本シンポジウムの開催・受付の目的以外には利用いたしません。
※やむを得ない事情によりプログラムが変更になる場合があります。

主催:京都大学、京都大学研究連携基盤
後援:石川県教育委員会、読売新聞社

交通●金沢駅より香林坊方面行きのバスをご利用ください。
南町下車、徒歩2分。

第12回 京都大学附置研究所・センター シンポジウム
京都大学金沢講演会

自由風格、京大（フリー スタイル）

京都からの挑戦——地球社会の調和ある共存に向けて

人と自然のつながりを考える

人はなぜ、森で感動するのか

伊勢武史
フィールド科学教育研究センター
准教授

巨木の圧倒的な存在感。木の葉をゆらすそよ風。小川のせせらぎ。人はたしかに、森で感動します。人はなぜ、森で感動するのか。これまでは、文学・美学・哲学といった人文科学の研究が主流だったこの疑問の答えを、生物進化や行動学といった生物学の観点から解き明かそうという挑戦的な研究を始めています。近年開発された、手軽に森に持ち出せる脳波計や眼電位センサなどの計測機器を用いた研究についても紹介します。

人と自然のつながりを考える

森林の『メタボ化』を診断する

木庭啓介
生態学研究センター
教授

我々の生活に様々なサービスを提供してくれる森林では、樹木の成長（一次生産力）は窒素という養分の供給不足により制限されているはずでした。しかし人間活動の増大に伴い、森林に足りなかった窒素が大量に供給されるようになり、窒素を使い切れない、いわば「メタボ」な森林が増えてきていると報告されてきています。講演ではこの森林の「メタボ化」を、最新の安定同位体技術を使ってどのように診断するかについてお話しします。

人と人のつながりを考える

地域研究で考えるリアルなアジア

中西嘉宏
東南アジア地域研究研究所
准教授

冷戦が終わったばかりのころ、資本主義と民主主義がアジアにも広がっていくと多くの人たちが予想しました。それから約四半世紀がたち、私たちの目の前には当時の予想とはずいぶん違う現実が広がっています。この予想と現実の差を説明するには、地域固有の発展経路に着目する地域研究のアプローチが役に立ちます。この講演では、民主主義をひとつの切り口にしながら、東南アジア各国の最新の政治状況について検討したいと思います。

体の仕組みに迫る

ウイルス化石が語る生命の進化

朝長啓造
ウイルス・再生医科学研究所
教授

地球上のすべての生物はウイルスに感染しています。生命の誕生と共に出現したウイルスは、生命進化には欠かせないパートナーだったと考えられています。最近の研究から、私たちのゲノムにはウイルスに由来する遺伝情報が数多く存在することが明らかになりました。私たちはなぜ自らの設計図に非生命体であるウイルスの情報を取り込んできたのでしょう。今回は、生命進化におけるウイルスの役割について考えてみたいと思います。

心の動きをたどる

芸術とはどんな〈出来事〉なのか?

吉岡　洋
こころの未来研究センター
教授

芸術は人に美を経験させ、癒しや心の豊かさを与えると言われます。しかし多くの現代芸術、とりわけ研究者や批評家が問題にするような作品は、普通の意味では美しくもなく、人を不安にさせたり不快や嫌悪の感情を起こさせるものも少なくありません。また芸術作品と言っても「モノ」ではなく、所有も保管もできないような「作品」もあります。いったい何が起こっているのでしょうか? 実例を見ながら考えてみたいと思います。

地球の豊かさを知る

生命を支える海の微量元素

宗林由樹
化学研究所
教授

海の植物プランクトンは、生長に必要な元素を海水から取りこみ光合成を行い、生態系の基礎となります。鉄などの海水中微量元素の不足は、植物プランクトンの生長を制限します。一方、人類は鉛などの有毒な微量元素を環境に大量に排出しています。したがって、海の微量元素の分布を調べることは重要です。本講演では、海の生物と鉄の深い関係、および世界の海における微量元素の分布について、最新の話題をやさしくお話しします。

宇宙の謎を解き明かす

ブラックホールだらけの宇宙

井岡邦仁
基礎物理学研究所
教授

アインシュタインが一般相対性理論を提唱して100年目の2015年9月15日にノーベル賞級の大発見がありました。重力波が初めて直接検出されたのです。その波形から連星ブラックホールが合体したことも分かりました。また、ブラックホールからは光すら出て来られませんが、実はガンマ線バーストなど宇宙で最も激しい現象の多くはブラックホールと関係します。一緒にブラックホールだらけの宇宙の謎に迫りましょう。

パネルディスカッション

「地上にもともと道はない」（魯迅）
——未踏科学研究ユニットが目指すもの

山極壽一
京都大学総長

大志万直人
京都大学研究連携基盤長

佐々木節
未来創成学国際研究ユニット長
基礎物理学研究所

湯本貴和
ヒトと自然の連鎖生命科学研究ユニット長
霊長類研究所

梅澤俊明
グローバル生存基盤展開ユニット長
生存圏研究所

原正一郎
学知創生ユニット長
東南アジア地域研究研究所

司会：吉川左紀子
こころの未来研究センター長

京都大学研究連携基盤
Kyoto University Research Coordination Alliance

化学研究所
人文科学研究所
ウイルス・再生医科学研究所
エネルギー理工学研究所
生存圏研究所
防災研究所
基礎物理学研究所
経済研究所
数理解析研究所
原子炉実験所
霊長類研究所
東南アジア地域研究研究所
iPS細胞研究所
放射線生物研究センター
生態学研究センター
学術情報メディアセンター
フィールド科学教育研究センター
こころの未来研究センター
野生動物研究センター
物質—細胞統合システム拠点